

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-292209

(43)公開日 平成10年(1998)11月4日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
A 41 C 3/10  
A 41 B 9/04  
A 41 C 1/00

識別記号

F I  
A 41 C 3/10 Z  
A 41 B 9/04 G  
A 41 C 1/00 F

審査請求 有 請求項の数11 O.L (全 10 頁)

(21)出願番号 特願平9-96850  
(22)出願日 平成9年(1997)4月15日

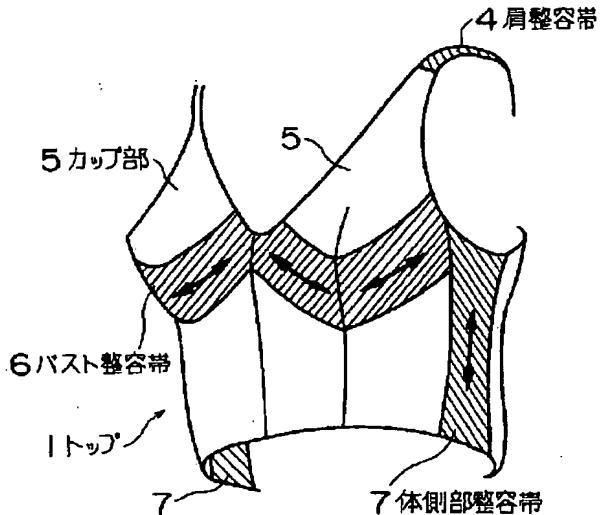
(71)出願人 000133456  
株式会社ダッヂエス  
神奈川県厚木市田村町6番11号  
(72)発明者 高津 章  
神奈川県厚木市田村町6番11号 株式会社  
ダッヂエス内  
(72)発明者 神崎 磐利  
神奈川県厚木市田村町6番11号 株式会社  
ダッヂエス内  
(72)発明者 神崎 説夫  
神奈川県厚木市田村町6番11号 株式会社  
ダッヂエス内  
(74)代理人 弁理士 唐木 貴男 (外2名)

(54)【発明の名称】 整容帶付下着

(57)【要約】

【課題】 熟練した技術を要することなく容易かつ安価に整容帶を整容機能のない通常の安価なガードルやパンティ等の下着に組み合わせて、人体の腹部、ウェスト部およびヒップ部等のより効果的な整容を低コストにて可能にした整容帶付下着を提供する。

【解決手段】 身体の所定部分を整容するための整容帶6、7を下着1における前記所定部分に対応する表裏の少なくともいずれかに接合した整容帶付下着において、前記整容帶6、7は縁部が予めほつれ防止処理(13、14)されて長さ方向にのみ伸縮自在な織地あるいは編地のエラスチックテープからなることを特徴とするものである。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 身体の所定部分を整容するための整容帶を下着における前記所定部分に対応する表裏の少なくともいざれかに接合した整容帶付下着において、前記整容帶は縁部が予めほつれ防止処理されて長さ方向にのみ伸縮自在な織地あるいは編地のエラスチックテープからなることを特徴とする整容帶付下着。

【請求項2】 前記整容帶が下着の裏側に接合された場合は、該整容帶の表面にパイル地等の肌生地を接合することを特徴とする請求項1に記載の整容帶付下着。

【請求項3】 前記整容帶の長さ方向の一部に非伸縮部が形成されたことを特徴とする請求項1または2に記載の整容帶付下着。

【請求項4】 前記整容帶とほぼ平行状態で非伸縮性帶が配置されたことを特徴とする請求項1または2に記載の整容帶付下着。

【請求項5】 前記整容帶がトップにおける左右のカップ部の下半分を左右方向に延びて接合されてバスト整容帶を構成し、体側部を上下に延びて接合されて体側部整容帶を構成するとともに、前記バスト整容帶の両端部が前記体側部整容帶の側部に接合されたことを特徴とする請求項1ないし4のいざれかに記載の整容帶付下着。

【請求項6】 前記整容帶がボトムにおける腹部中央から側部上方向に延びて接合されて腹部整容帶を構成し、体側部を上下に延びて接合されて体側部整容帶を構成し、ヒップの下半分を左右方向に延びて接合されてヒップ整容帶を構成するとともに、前記腹部整容帶およびヒップ整容帶の各両端部が前記体側部整容帶の側部に接合されたことを特徴とする請求項1ないし4のいざれかに記載の整容帶付下着。

【請求項7】 前記整容帶がボディスーツ等における体側部および背部を上下方向に延びて接合されて体側部整容帶および背部整容帶を構成したことを特徴とする請求項1ないし4のいざれかに記載の整容帶付下着。

【請求項8】 前記整容帶がボディスーツ等におけるウエストの周囲を上下方向に延びて接合されてウエスト整容帶を構成したことを特徴とする請求項1ないし4のいざれかに記載の整容帶付下着。

【請求項9】 前記整容帶における長さ方向に沿った両縁部の長さを互いに異ならせるとともに、長いほうの縁部のみを下着に接合したことを特徴とする請求項1ないし6のいざれかに記載の整容帶付下着。

【請求項10】 互いに接合されて接合部を構成する前記整容帶および下着の身頃体における接合縁部のいざれか一方を四状に形成し、これら接合縁部同士を接合したことを特徴とする請求項1ないし9のいざれかに記載の整容帶付下着。

【請求項11】 前記整容帶が下着の身頃体自体を構成することを特徴とする請求項1ないし10のいざれかに記載の整容帶付下着。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、婦人用のブラジャー等のトップ、パンティ、タイツ等のボトム、さらにはガードル、ボディスーツ等の下着に接合されて人体の所定の部分、腹部、ウェスト部およびヒップ部さらには背部や肩部の整容を可能にした整容帶付下着に関する。また、本発明の整容帶は水着等にも適用され得る。

## 【0002】

【従来の技術】従来から、身体の所定部分、腹部、体側部およびヒップ部等を整容をするための裏当を通常型の安価な下着の所定部分の裏側に縫合したもののが数多く提案されている。これらの提案における多くの裏当は、表地本体と同一の生地あるいは裏地用生地を適宜の幅や長さに裁断して、下着本体の適宜の部位にはめ込みや縫合等の手段によって裏打ちをしていた。そして、これらの裏当を裏打ちする際には、上着の表側に見苦しい突起として裏当のシルエットが現れることがないように、裏当の裁断縁部には折返し等のほつれ防止処理を施すことなく、裏当を下着本体に縫合していた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】したがって、このような従来の下着における整容帶としての裏当では、比較的伸縮性に乏しく、身体の所定部分に対応させた効果的な整容が充分でないばかりか、下着の頻繁な洗濯によって裁断縁部がほつれ易いものであり、そのために裏当の下着本体への縫合の際にはその裁断縁部をほつれ防止処理を兼ねて丹念に縫い付けていかねばならなかった。下着自体の複雑な立体形状に適合させて裏当の裁断縁部を縫い付けていくことは非常な労力と熟練した技術を要し、下着全体のコストアップにつながっていた。

【0004】そこで、本発明では、熟練した技術を要することなく容易かつ安価に整容帶を整容機能のない通常の安価なガードルやパンティ等の下着に組み合わせて、人体の腹部、ウェスト部およびヒップ部等のより効果的な整容を低コストにて可能にした整容帶付下着を提供する。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明では、身体の所定部分を整容するための整容帶を下着における前記所定部分に対応する表裏の少なくともいざれかに接合した整容帶付下着において、前記整容帶は縁部が予めほつれ防止処理されて長さ方向にのみ伸縮自在な織地あるいは編地のエラスチックテープからなることを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帶が下着の裏側に接合された場合は、該整容帶の表面にパイル地等の肌生地を接合したことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帶の長さ方向の一部に非伸縮部が形成されたことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帶とほぼ平行状態で非伸縮性帶

が配置されたことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帯がトップにおける左右のカップ部の下半分を左右方向に延びて接合されてバスト整容帯を構成し、体側部を上下に延びて接合されて体側部整容帯を構成するとともに、前記バスト整容帯の両端部が前記体側部整容帯の側部に接合されたことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帯がボトムにおける腹部中央から側部上方向に延びて接合されて腹部整容帯を構成し、体側部を上下に延びて接合されて体側部整容帯を構成し、ヒップの下半分を左右方向に延びて接合されてヒップ整容帯を構成するとともに、前記腹部整容帯およびヒップ整容帯の各両端部が前記体側部整容帯の側部に接合されたことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帯がボディスーツ等における体側部および背部を上下方向に延びて接合されて体側部整容帯および背部整容帯を構成したことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帯がボディスーツ等におけるウェストの周囲を上下方向に延びて接合されてウェスト整容帯を構成したことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帯が肩ひもの長さ方向に接合されて肩整容帯を構成したことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帯における長さ方向に沿った両縁部の長さを互いに異ならせるとともに、長いほうの縁部のみを下着に接合したことを特徴とするものである。また本発明は、互いに接合されて接合部を構成する前記整容帯および下着の身頃体における接合縁部のいずれか一方を凹状に形成し、これら接合縁部同士を接合したことを特徴とするものである。また本発明は、前記整容帯が下着の身頃体自体を構成することを特徴とするもので、これらを課題解決のための手段とするものである。

#### 【0006】

【実施の形態】以下本発明の実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。図1は本発明の第1実施の形態を示し、整容帯がトップに接合されたものである。本実施の形態のものは、婦人用のブラジャー、ボディスーツ等下着の上半分のトップ1において、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる整容帯をバストを収容する左右のカップ部5、5の下半分を左右方向に延びて接合されてバスト整容帯6を構成し、体側部を上下に延びて接合されて体側部整容帯7、7を構成するとともに、前記バスト整容帯6の両端部が前記体側部整容帯7の側部に接合されたことを特徴とするものである。なお、これらの接合は縫合等のみならず、高周波溶着等により接合することも含まれるものである。整容体としてはボトムの例である図3(B)の腹部整容帯8および体側部整容帯9に示すように、着用時の違和感や表着への影響を避けるために縁部は原則として折り返されることなく、ほつれ止め縫い13やほつれ防止布14等によって縁部が予めほつれ防止処理され、長さ方向にのみ伸縮自在なパワーネット等の伸縮性生地を用いた織地あるいは

は編地のエラスチックテープからなるものである。そして、確実な人体各部の整容を行うためには、整容帯の伸長時に生地そのものの幅が細くならないこと等から、伸縮性生地として当初から整容帯としての帶状に形成された織物あるいはこのようないわゆる編物を採用することが望ましく、これらの採用により比較的自由な設計形状を得ることができる。なお、本発明の整容帯は長さ方向にのみ伸縮自在とされるが、長さ方向に直交する幅方向に全く伸縮性を示さないものではなく、長さ方向の伸縮率に比較して無視できる程度であれば、幅方向に僅かな伸縮性を示すことを妨げるものではない。また、整容帯は図3(B)のB断面にて示すように、整容帯が下着の裏側に接合された場合は、該整容帯の帶本体部9Aの表面に人体の肌に馴染み易いパイル地9B等の肌生地を接合するものである。

【0007】本発明における整容帯の伸縮性については、後述する実施の形態にて説明するように、整容帯の長さ方向の一部に非伸縮部を形成したり、整容帯とほぼ平行状態で非伸縮性帯が配置されるものも採用されるものであるが、これらの伸縮部と非伸縮部との間の境界部については、断続的に伸縮部から非伸縮部に移行する構成の他に、段階的に伸縮部から非伸縮部に移行する構成も採用されることは言うまでもないことである。そして、これらの伸縮部と非伸縮部との組合せになる整容帯は、前記第1実施の形態のものは言うに及ばず、後述する各実施の形態における各部に配置される整容帯としても採用され得る構成である。これらの整容帯における伸縮率を設計するには、整容帯を構成する糸のデニールを変えたり、加熱や加圧あるいは樹脂の含浸等によって非伸縮化させる。また、本実施の形態および後述する各整容帯については、下着の内側に接合される場合の他、下着の外側に接合されて配置される構成も採用され得る。

【0008】このような構成によって、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる整容帯をバストを収容する左右のカップ部5、5の下半分を左右方向に延びて接合されて配置されたバスト整容帯6は、長さ方向に左右方向に縮んで各バストを隆起させるとともに、幅方向に上下方向には非伸縮性であることから各バストを下半分から上方へ効果的にバストアップさせる。一方、下着の体側部に接合された体側部整容帯7、7は人体の前後方向には非伸縮性であることから人体の体側部を効果的に絞り込んで確保したまま、長さ方向に上下方向に伸縮自在であることから人体の体側部の贅肉等を上下に散らすことが可能となる。しかも、人体の体側部において体側部整容帯7は幅方向である前後に妄動することができないので、前記バスト整容帯6の両端部が前記体側部整容帯7の側部に接合された場合には、前述したバスト整容帯6によるバストの隆起作用およびバストアップ作用を通じてバスト整容帯6を確実に受け止めてその作用を助長することが可能である。な

お、バスト整容帯6の両端部と体側部整容帯7の側部とを接合する際のように各整容帯同士を接合して連結するには、好適には人体側への突出しが少いように突合せにより縫合して接合するものであるが、後述する図3(A)に示すような重ね接合を妨げるものではない。

【0009】また、本発明によれば、縁部が予めほつれ防止処理されて長さ方向にのみ伸縮自在な織地あるいは編地のエラスチックテープからなる整容帯を、下着の裏側あるいは表側の所定の整容を必要とする部位に、単純な直線縫い等によって接合することができるるので、従来の整容帯としての裏当のもののように、伸縮性に乏しくて身体の所定部分に対応させた効果的な整容が充分でなかつたり、下着の頻繁な洗濯によって裁断縫部がほつれるこどもない。また、裏当の下着本体への縫合の際にその裁断縫部をほつれ防止処理を兼ねて丹念に縫い付ける必要もない。このように、従来の整容帯付下着のように腹部からウェスト部さらにはヒップ部全体を覆うものは全く相違し、それらの部分の全体を覆うのは整容機能のない低廉な下着生地で充分であり、整容機能を有する高価な整容帯は腹部、ウェストおよびヒップ等、整容を必要とする部位のみのために、従来の高価なガードルと同等の整容効果のあるガードルが低コストで得られる。しかも、長さ方向にのみ伸縮性のある整容帯を簡単な直線縫い等の接合により下着に熟練した技術を要することなく容易かつ安価に整容帯を整容機能のない通常の安価なガードルやパンティ等の下着に組み合わせて、人体の腹部、ウェスト部およびヒップ部等のより効果的な整容を低コストにて可能にした整容帯付下着が提供される。

【0010】図2は本発明の第2実施の形態を示し、整容帯がボトムの内側に接合された例である。本実施の形態のものは、婦人用のパンティ、タイツ、ボディスーツの下半分等下着のボトム2において、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる整容帯を、ボトム2における腹部中央から側部上方向に延びて接合されて腹部整容帯8を構成し、体側部の左右をそれぞれ上下に延びて接合されて体側部整容帯9、9を構成し、ヒップの下半分を左右方向に延びて接合されてヒップ整容帯10を構成するとともに、前記腹部整容帯8およびヒップ整容帯10の各両端部を前記体側部整容帯9、9の側部に接合したことを特徴とするものである。図2のA矢視図である図3(A)にて示すように、ボトム2の上端部の内側周囲には伸縮性のある腰帯12が接合されており、該腰帯12に上端部が重合されて体側部整容帯9がボトム2の内側の体側部に接合される。体側部整容帯9の上方前側部には腹部整容帯8の上端部が重合して接合され、体側部整容帯9の中間後側部にはヒップ整容帯10の上端部が重合して接合される。これらの各整容帯同士を接合して連結するには、図示の例のように重合するとの他、好適には人体側への突出しが少いように突合

せにより縫合して接合することが奨励される。

【0011】また、整容体としては、前述の図3(B)にて説明したように、腹部整容帯8、体側部整容帯9およびヒップ整容帯10は、縁部は原則として折り返されることなく、ほつれ止め縫い13やほつれ防止布14等によって下着本体への接合前に予めほつれ防止処理され、長さ方向にのみ伸縮自在なパワーネット等の伸縮性生地を用いた織地あるいは編地のエラスチックテープからなり、腹部整容帯8における1点鎖線にて示すように斜めにカットして体側部整容帯9に突合せあるいは重合して縫合等により接合するものである。また、前記実施の形態のものと同様に、整容帯が下着の裏側に接合された場合は、該整容帯の帶本体部9Aの表面に人体の肌に馴染み易いパイル地9B等を接合するものである。

【0012】このような構成により、本実施の形態のものでは、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる整容帯をボトム2における腹部中央から側部上方向に延びて接合されて腹部整容帯8を構成し、体側部の左右をそれぞれ上下に延びて接合されて体側部整容帯9、9を構成し、ヒップの下半分を左右方向に延びて接合されてヒップ整容帯10を構成するとともに、前記腹部整容帯8およびヒップ整容帯10の各両端部を前記体側部整容帯9、9の側部に接合したことによって、腹部中央から側部上方向に延びて接合されて配置された腹部整容帯8は、長さ方向すなわち側部上方向に縮んで腹部を効果的に凹ませるとともに、幅方向には非伸縮性であることから腹部の贅肉を腹部整容帯8の長さ方向に直交する方向に効果的に散らすことができる。また、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなるヒップ整容帯10はヒップの下半分を左右方向に延びて接合されて構成されているので、左右のヒップの下半分を左右方向に延びて接合されて配置されたヒップ整容帯10は、長さ方向すなわち左右方向に縮んでヒップを隆起させつつ、ヒップ整容帯10が幅方向すなわち上下方向には非伸縮性であることからヒップを下半分から上方へ効果的にアップさせることができる。一方、下着のボトム2の体側部に接合された体側部整容帯9、9は人体の前後方向には非伸縮性であることから人体の体側部を効果的に絞り込んで確保したまま、長さ方向すなわち上下方向に伸縮自在であることから人体の腹部やヒップ周囲の体側部の贅肉等を上下に散らすことが可能な上に、人体の体側部において体側部整容帯9は幅方向である前後に妄動することができないので、前記腹部整容帯8やヒップ整容帯10の各両端部が前記体側部整容帯9の側部に接合された場合には、前述した腹部整容帯8による腹部の整容作用およびヒップ整容帯10によるヒップアップ作用を通じてこれらの整容帯8、10を確実に受け止めてその作用を助長することが可能となる。

【0013】図4は本発明の第3実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは基本的には前記第2実施の形

態と同様の構造を有しており、整容帯がボトムの内側に接合された例である。本実施の形態のものでは、図4(A) (B)に示すように、人体のヒップの隆起形状に適合してヒップ整容帯10が湾曲形成されるように構成するために、ヒップ整容帯10の下側の側部に扇形の切込みを入れて切除部11を設け、これら切除部11における両縁を縫い縮めたものである。この構造の場合は、ヒップ整容帯10のヒップ下縁部への当接は必然的にヒップ整容帯10が斜め下方に向かうようになり、ヒップ部の下方部への当接が確実になって、ヒップアップ作用を通じてヒップ整容帯10がヒップ下部から外れる虞れが減少する。このように、整容帯としての帶状体は、表着に響かないような球面等の滑らかな立体形状によるシリエットが部分的に採用されて腹部やウェスト部およびヒップをより自然な形状に整容できるように設計され、また、着用時に違和感を与えないように人体に対して均一なパワーが作用すべく、編組織、織組織、さらには複数の素材の重合、縫合あるいは樹脂加工等によって整容すべき人体の部位に応じて各種の処理が施されることが望ましい。

【0014】図5は本発明の第4実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、整容帯がボディスーツ等における体側部および背部を上下方向に延びて接合されて体側部整容帯および背部整容帯を構成したことを特徴とするものである。図5に示すように、トップとボトムが一体になったボディスーツ3等における体側部の左右両側および背部に上下方向に長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる体側部整容帯15、15および背部整容帯16を接合したものである。本実施の形態では、背部整容帯16の長さ方向の一部に非伸縮部16Aを形成してある。このように構成したことにより、体側部が上下方向に引き伸ばされて整容されるとともに、背部においてウェスト近辺が非伸縮部16Aによって効果的に押しつけられ、この部分を含むその上下の贅肉等は非伸縮部16Aの上下の背部整容帯16の伸縮部分によって効果的に上下に散らされる。

【0015】図6は本発明の第5実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、整容帯が肩ひもの長さ方向に接合されて肩整容帯4を構成したことを特徴とするものである。図6に示すように、図示外のブラジャー等のトップにおける肩ひもの長さ方向の一部に長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる肩整容帯4を接合したものである。本実施の形態でも、肩整容帯4の長さ方向の一部に非伸縮部4Aを形成してある。このように構成したことにより、肩の上部における非伸縮部4Aを固定部として肩整容帯4の伸縮部によってトップが効果的に吊り上げられ、トップにおける図示しないカップ部のバストアップ効果等を助長することができる。

【0016】図7は本発明の第6実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、整容帯がボディスーツ等に

おけるウェストの周囲を上下方向に延びて接合されてウェスト整容帯を構成したことを特徴とするものである。図7に示すように、トップとボトムが一体になったボディスーツ3等におけるウェストの周囲に上下方向に長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなるウェスト整容帯17を接合したものである。本実施の形態では、上下に伸びる前記ウェスト整容帯17とほぼ平行状態で上下に伸びる非伸縮性帯17Aを配置してある。このように構成したことにより、ウェスト周りにおける贅肉等が非伸縮性帯17Aによって確実に凹状に押しつけられるとともに、その両側のウェスト整容帯17の伸縮部によってウェストの上下に散らすことができる。

【0017】図8は本発明の第7実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる整容帯として、ボトム2における腹部中央から側部上方向に延びて接合されて腹部整容帯8を構成したものにおいて、長さ方向の一部である腹部中央部を非伸縮部8Aに形成するとともに、体側部の左右をそれぞれ上下に延びて接合されて体側部整容帯9、9を構成し、前記腹部整容帯8の両端部を体側部整容帯9、9の側部に接合したものである。このような構成によって、腹部中央から側部上方向に延びて接合されて配置された腹部整容帯8は、非伸縮部8Aである腹部中央部にて腹部の贅肉等を捕捉した上で、その左右上方両側における伸縮部によって長さ方向すなわち側部上方向に縮んで腹部を効果的に凹ませるとともに、幅方向には非伸縮性であることから腹部の贅肉を腹部整容帯8の長さ方向に直交する方向に効果的に散らすことができる。しかも、体側部に接合された体側部整容帯9、9は人体の前後方向には非伸縮性であることから人体の体側部を効果的に絞り込んで確保したまま、長さ方向すなわち上下方向に伸縮自在であることから人体の腹部周囲の体側部の贅肉等を上下に散らすことが可能な上に、人体の体側部において体側部整容帯9は幅方向である前後に妄動することができないので、前記腹部整容帯8の各両端部が前記体側部整容帯9の側部に接合された場合には、腹部整容帯8による腹部の整容作用を確実に受け止めてその作用を助長することが可能となる。

【0018】図9は本発明の第8実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、整容帯がヒップの下半分を左右方向に延びて接合されてヒップ整容帯10を構成したものにおいて、該ヒップ整容帯10とほぼ平行状態で非伸縮性帯10Aを配置するとともに、体側部の左右をそれぞれ上下に延びて接合されて体側部整容帯9、9を構成し、前記ヒップ整容帯10および非伸縮性帯10Aの各両端部を体側部整容帯9、9の側部に接合したものである。このような構成によって、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなるヒップ整容帯10はヒップの下半分を左右方向に延びて接合されて構成されているので、左右のヒップの下半分を左右方向に延びて

接合されて配置されたヒップ整容帯10は、長さ方向すなわち左右方向に縮んでヒップを隆起させつつ、ヒップ整容帯10が幅方向すなわち上下方向には非伸縮性であることからヒップを下半分から上方へ効果的にアップさせることができる。その際、ヒップ整容帯10とほぼ平行状態で配置された非伸縮性帯10Aは、長さ方向にも伸びることなくヒップの下半分を確実に捕捉してヒップアップ効果を促進する。一方、下着のボトム2の体側部に接合された体側部整容帯9、9は人体の前後方向には非伸縮性であることから人体の体側部を効果的に絞り込んで確保したまま、前後に妄動することができないので、前記ヒップ整容帯10および非伸縮性帯10Aの各両端部が前記体側部整容帯9の側部に接合された場合には、ヒップアップ作用を通じてこれらの整容帯10、10Aを確実に受け止めてその作用を助長することが可能となる。

【0019】図10は本発明の第9実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、ヒップ整容帯10における長さ方向に沿った両縁部の長さを互いに異ならせるとともに、長いほうの縁部のみを下着に接合したことを特徴とするものである。図10(B)に示すように、ヒップ整容帯10の長さ方向に沿った上縁部の長さLを下縁部の長さlより大きく形成し、これを図10(A)に示すように長いほうの上縁部のみを下着であるボトム2に縫合部10Bによって接合したものである。このように構成したことにより、ヒップ整容帯10における接合されていない下縁部は比較的自由にヒップの形状に適合するとともに、幾分短く構成された寸法によってヒップの下縁部を程よく圧縮してヒップアップの効果を高めることができくなる。

【0020】図11は本発明の第10実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、腹部整容帯8における長さ方向に沿った両縁部の長さを互いに異ならせるとともに、長いほうの縁部のみを下着に接合したことを特徴とするものであり、図11(B)に示すように、腹部整容帯11の長さ方向に沿った下縁部の長さLを上縁部の長さlより大きく形成し、これを図11(A)に示すように長いほうの下縁部のみを下着であるボトム2に縫合部8Bによって接合したものである。このように構成したことにより、腹部整容帯11における接合されていない上縁部は比較的自由に腹部の形状に適合するとともに、幾分短く構成された寸法によって腹部の頂上部を程よく圧縮して腹部の整容効果を高めることができくなる。

【0021】図12は本発明の第11実施の形態を示すもので、本実施の形態のものでは、互いに接合されて接合部を構成する側部整容帯7および下着の身頃体(本実施の形態ではカップ部5)における接合縁部のいずれか一方、例えば側部整容帯7側の接合縁部は直線のままでカップ部5側を矢印Sで示すように凹状に形成し、これ

ら接合縁部同士を接合するものである。あるいは、図12(B)に示すように、下着の身頃体側の接合縁部は直線のままで側部整容帯7側の左右端部を矢印Sで示すように凹状に形成したり、または図12(A)の側部整容帯7に代えて図12(C)に示すような高伸縮部7と低伸縮部7Aとを重合させて構成したものを探用することもできる。このように構成したことによって、前記凹状接合部の接合により必要な部位の圧力を高めることができるものである。

【0022】図13は本発明の第12実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、整容帯例えは側部整容帯7が下着であるトップ1の身頃体自体を構成することを特徴とするものである。図13(B)のような、縁部が予めほつれ防止処理されて長さ方向にのみ伸縮自在な織地あるいは編地のエラスチックテープからなる整容帯の一部を点線のようにトップ1の身頃体における形状にカットして部品化し、これを図13(A)に示すように、トップ1の身頃体自体を構成させるものである。このように構成したことにより、長さ方向の縁部に関して、縁部が予めほつれ防止処理されたエラスチックテープからなる整容帯をトップ1の身頃体の他の部分に対して何らのほつれ防止処理を施すことなく、容易に接合することができる。

【0023】図14は本発明の第13実施の形態を示すもので、本実施の形態のものは、前記第12実施の形態のものと同様に、縁部が予めほつれ防止処理されて長さ方向にのみ伸縮自在な織地あるいは編地のエラスチックテープからなる整容帯の一部を、図14(C)の点線のようにトップ1の身頃体における表あるいは裏部品の形状としてカットして部品化し、これを図14(A)あるいは図14(B)に示すように、トップ1の身頃体のかップ部5の表あるいは裏に接合させるものである。このように構成したことにより、長さ方向の縁部に関して、縁部が予めほつれ防止処理されたエラスチックテープからなる整容帯をトップ1の身頃体に対して何らのほつれ防止処理を施すことなく、容易に接合することができる。

【0024】以上、本発明の各実施の形態を説明してきたが、本発明の趣旨の範囲内において、本発明の整容帯が接合されるブラジャー等のトップの種類、パンティ、タイツ等のボトムの種類、ガードル、ボディスーツ等の下着の種類、それらの材質、整容帯が接合される下着における部位、各整容帯の幅、形状、長さ、非伸縮部との組合せ形態、各整容帯間の接合連結形態、整容帯の下着への接合形状および接合形態、整容帯縁部におけるほつれ止め形式、整容帯における非伸縮部の形成形態等について適宜選択できるものであることは言うまでもない。また、整容帯において非伸縮部を形成するのに伸縮性生地あるいは裏地にジグザグ部を呈するごとく低伸縮性糸を編み込んでもよい。また、非伸縮部を異なった色

に彩色して商品としての識別やデザイン的な変化を楽しむことも可能である。

**【0025】**

【発明の効果】以上詳細に説明したように、本発明によれば、縁部が予めほつれ防止処理されて長さ方向にのみ伸縮自在な織地あるいは編地のエラスチックテープからなる整容帯を、下着の裏側あるいは表側の所定の整容を必要とする部位に、単純な直線縫い等によって接合することができる。従来の整容帯としての裏当のもののように、伸縮性に乏しくて身体の所定部分に対応させた効果的な整容が充分でなかったり、下着の頻繁な洗濯によって裁断縁部がほつれることもある。また、裏当の下着本体への縫合の際にその裁断縁部をほつれ防止処理を兼ねて丹念に縫い付ける必要もない。このように、従来の整容帯付下着のように腹部からウェスト部さらにはヒップ部全体を覆うものとは全く相違し、それらの部分の全体を覆うのは整容機能のない低廉な下着生地で充分であり、整容機能を有する高価な整容帯は腹部、ウェストおよびヒップ等、整容を必要とする部位のみであるために、従来の高価なガードルと同等の整容効果のある整容帯付下着が低コストで得られる。しかも、長さ方向にのみ伸縮性のある整容帯を簡単な直線縫い等の接合により下着に熟練した技術を要することなく容易かつ安価に整容帯を整容機能のない通常の安価なガードルやパンティ等の下着に組み合わせて、人体の腹部、ウェスト部およびヒップ部等のより効果的な整容を低コストにて可能にして、洗濯にても整容帯にほつれ等を生じることがない丈夫な整容帯付下着が提供される。

**【0026】**また、長さ方向にのみ伸縮自在なエラスチックテープからなる整容帯をバストを収容する左右のカップ部あるいはヒップの下半分に左右方向に延びて接合して配置すれば、長さ方向すなわち左右方向に縮んで各バストやヒップを隆起させるとともに、幅方向すなわち上下方向には非伸縮性であることから各バストやヒップを下半分から上方へ効果的にアップさせることができる。また、腹部中央から左右の側部上方向に延びて腹部整容帯を接合すれば、長さ方向すなわち側部上方向に縮んで腹部を効果的に凹ませるとともに、幅方向には非伸縮性であることから腹部の贅肉を腹部整容帯の長さ方向に直交する方向に効果的に散らすことができる。一方、体側部整容帯を下着の体側部に接合すれば、人体の前後方向には非伸縮性であることから人体の体側部を効果的に絞り込んで確保したまま、長さ方向すなわち上下方向に伸縮自在であることから人体の体側部の贅肉等を上下に散らすことが可能となる。しかも、人体の体側部において体側部整容帯は幅方向である前後に妄動するがないので、前記バスト整容帯や腹部整容帯さらにはヒップ整容帯等の整容帯の両端部を前記体側部整容帯の側部に接合した場合には、これらの整容帯における整容作用を通じてそれらの整容帯を確実に受け止めてその作用を助

長することが可能となる。

【0027】また、整容帯における長さ方向に沿った両縁部の長さを互いに異ならせるとともに、長いほうの縁部のみを下着に接合すれば、整容帯における接合されていない縁部は比較的自由に整容部の形状に適合するとともに、幾分短く構成された寸法によって整容部を程よく圧縮して整容効果を高めることが可能になる。また、互いに接合されて接合部を構成する前記整容帯および下着の身頃体における接合縁部のいずれか一方を凹状に形成し、これら接合縁部同士を接合すれば、前記凹状接合部の接合により必要な部位の圧力を高めることができるとなる。また、前記整容帯を下着の身頃体自体あるいは表裏の当布として部品化して構成するならば、長さ方向の縁部に関して、縁部が予めほつれ防止処理されたエラスチックテープからなる整容帯を下着の身頃体の他の部分に対して何らのほつれ防止処理を施すことなく、容易に接合することができる。

**【図面の簡単な説明】**

【図1】本発明の第1実施の形態を示し、整容帯がトップの内側に接合されたものの斜視図である。

【図2】本発明の第2実施の形態を示し、整容帯がボトムの内側に接合されたものの斜視図である。

【図3】本発明の第2実施の形態を示し、図2におけるA矢視図および整容帯を示す図である。

【図4】本発明の第3実施の形態を示すもので、整容帯がボトムの内側に接合されたものの側面図および背面図である。

【図5】本発明の第4実施の形態を示すもので、整容帯がボディスーツ等における背部に接合されたものの背面図である。

【図6】本発明の第5実施の形態を示すもので、整容帯が肩ひもに接合されたものの斜視図である。

【図7】本発明の第6実施の形態を示すもので、整容帯がボディスーツ等におけるウェストの周囲に接合されたものの斜視図である。

【図8】本発明の第7実施の形態を示すもので、整容帯がボトムにおける腹部に接合されたものの正面図である。

【図9】本発明の第8実施の形態を示すもので、整容帯がヒップの下半分に接合されたものの背面図である。

【図10】本発明の第9実施の形態を示すもので、整容帯がヒップに接合されたものの背面図である。

【図11】本発明の第9実施の形態を示すもので、整容帯が腹部に接合されたものの正面図である。

【図12】本発明の第10実施の形態を示すもので、整容帯とカップ部との間の接合形態を示す図である。

【図13】本発明の第11実施の形態を示すもので、整容帯が身頃体自体を構成するものの斜視図である。

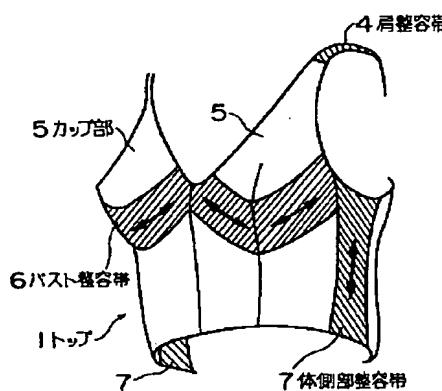
【図14】本発明の第12実施の形態を示すもので、整容帯が裁断されてカップ部を構成するものの斜視図であ

る。

【符号の説明】

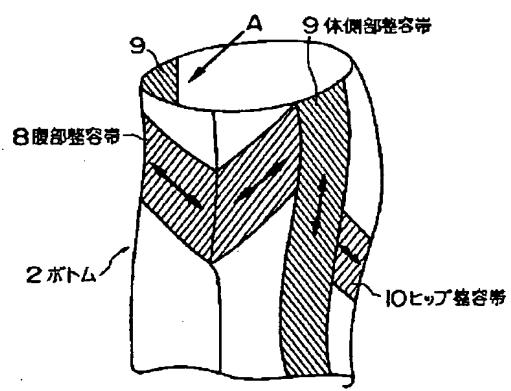
- 1 トップ
- 2 ボトム
- 3 ボディースーツ
- 4 肩整容帶
- 4 A 非伸縮部
- 5 カップ部
- 6 バスト整容帶
- 7 体側部整容帶
- 8 腹部整容帶
- 8 A 非伸縮部
- 9 体側部整容帶

【図1】

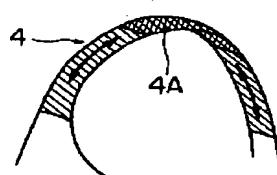


- 9 A 帯本体部 (Band Main Body)
- 9 B パイル地 (肌生地) (Pile Fabric (Skin Surface))
- 10 ヒップ整容帶 (Hip Shaping Band)
- 10 A 非伸縮性帶 (Non-elastic Band)
- 11 切除部 (Cutting Off Part)
- 12 腰帶 (Waistband)
- 13 ほつれ止め縫い (Friction Prevention Stitch)
- 14 ほつれ防止布 (Friction Prevention Cloth)
- 15 体側部整容帶 (Side Body Shaping Band)
- 16 背部整容帶 (Back Shaping Band)
- 16 A 非伸縮部 (Non-elastic Band)
- 17 ウエスト整容帶 (Waist Shaping Band)
- 17 A 非伸縮性帶 (Non-elastic Band)

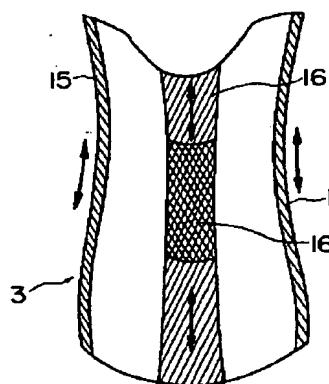
【図2】



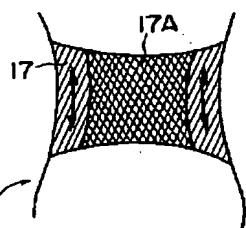
【図6】



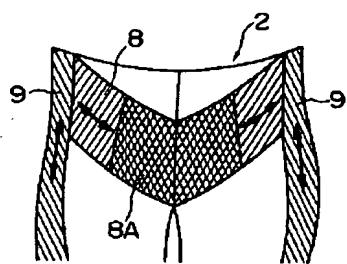
【図5】



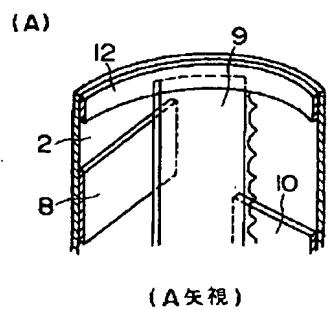
【図7】



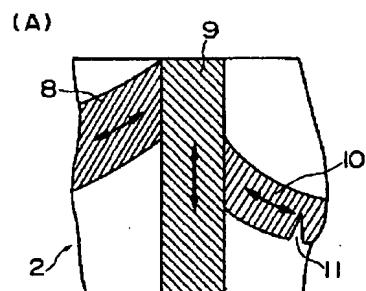
【図8】



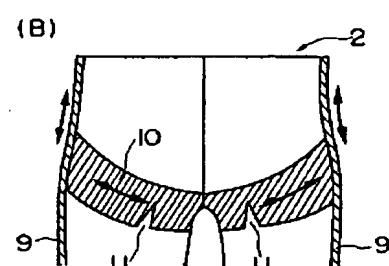
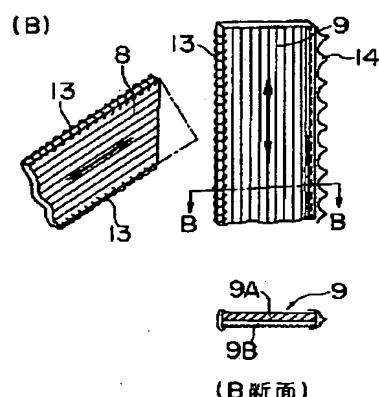
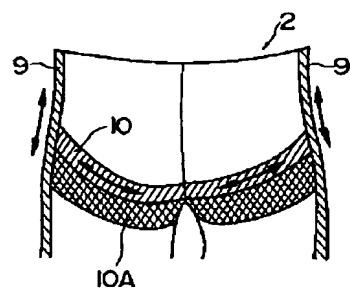
【図3】



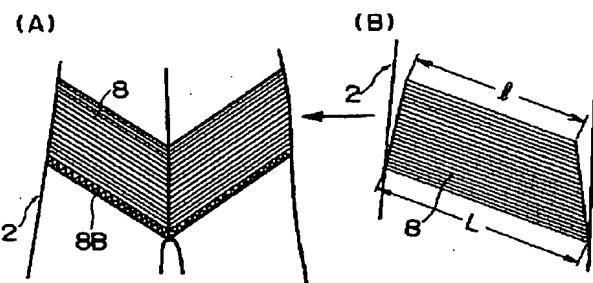
【図4】



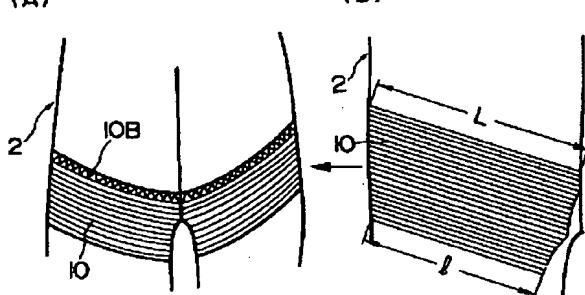
【図9】



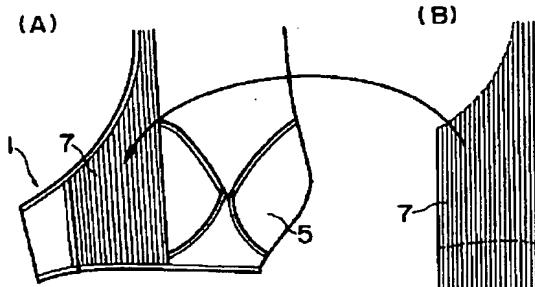
【図11】



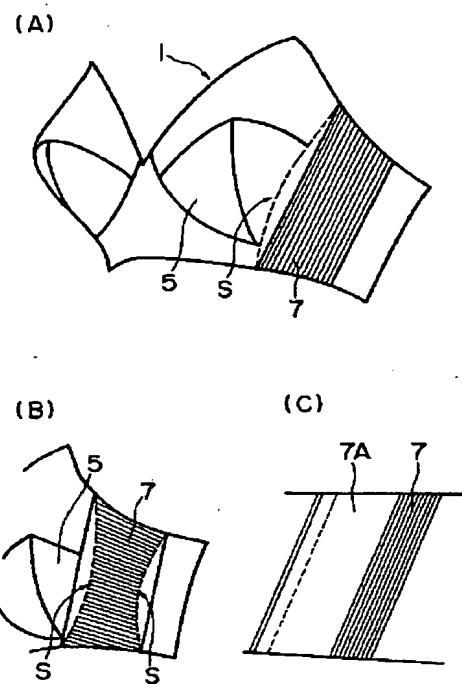
【図10】



【図13】



【図12】



【図14】

